



IUFRO-J NEWS

No. 115 (2015.8) —

IUFRO-J 議長就任にあたって

IUFRO-J 議長 沢田治雄

アジア工科大学院（タイ）での滞在を1年で切り上げて、2015年4月1日に国立研究開発法人森林総合研究所理事長を拝命し、鈴木和夫先生の後任として国際森林研究機関連合-日本委員会（IUFRO-J）議長をお引き受けいたしました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

IUFRO はご存知のように森林研究におけるグローバルな連携を推進して、森林と樹木に関わる生態的、経済的、また社会的な理解を深めるため、さらにはそれらの知見を事業や政策、具体的な森林管理に資するための活動を行っています。現在の会員数は、世界110カ国以上・約700の機関におられる1万5千人以上となっています。IUFRO はこれらの会員相互を繋ぐ役割を担い、様々な国際会議等の開催を支援しています。

IUFRO-J は日本で1981年に開催されたアジア初のIUFRO 大会の準備を契機として1976年に設立されました。国際会議に実に5年の準備期間を持ったわけです。1978年に林業試験場（現在の森林総合研究所）でリモートセンシングの研究を始めた私は、ほとんど通じないような英語で苦戦しました。それでも、当時のおもてなしも高く評価されたと思っています。

また、このIUFRO-J NEWS は、国内のIUFRO 加盟機関・研究者間の情報誌として、IUFRO 本部からの連絡事項、IUFRO-J の活動及び加盟機関の研究活動状況等の情報交換を行うことを主な目的として、1977年に発刊

されました。それ以来、38年間にわたって発刊されてきました。ここにあらためて、関係者の方々のご努力と、ご支援を頂いてきた会員の皆様に感謝致します。

さらに、多くの会員の皆様の活動がIUFRO の活動として登録されることを願っています。今後も啓蒙普及に努めて参りたいと思っています。

とりわけ、地球温暖化対応など、世界の森林研究者の知見の重要性はますます高まり、国際社会における政策提言も求められる機会が多くなっています。REDD+を始め関係各位のご努力に感謝していますが、国際社会では国策としての提言が必要となることが多いのも事実です。日本国内の研究者の情報交流や人的交流を深めるとともに、日本としての世界への情報発信や、国際社会における人材育成・交流も極めて重要です。そのような活動の場として今後ともIUFRO-J をご活用いただきたく思っています。

森林がもたらす自然環境の恵みとそこから生まれる様々な文化の持続的な発展と育成を国内外で推進するために、今後とも会員の皆様のご支援と会員増加へのご協力をお願い申し上げます。





IUFRO 本部から日本の皆さんへ

IUFRO 本部事務局長 Alexander Buck

日本と国際森林研究機関連合 (IUFRO) との間には長い歴史があります。IUFRO 会員機関数は 23 機関、準会員 9 名、そして 31 名の officeholder (注 1) がいます。これらの会員と officeholder は、日本、あるいは世界の様々な地域で IUFRO 国際学会を開催していくために重要な役割を果たしています。こうした背景の下に、国際森林研究機関連合-日本委員会 (IUFRO-J) は、日本の森林関係研究者が IUFRO の活動へかかわっていく優れたイニシアティブになっています。

個人的なことです。2012 年 2 月、私は、仙台での国際セミナー「自然災害における森林の役割と森林・林業の復興 (International Seminar on Role of Forests in Natural Disasters and Revival of Forests and Forestry)」(注 2) に出席する貴重な経験を持ちました。東日本大震災が発生してから一年未満に開催されたこのセミナーでは、震災で損傷を受けた地域を回復させるための真の偉大な努力とそのため科学の役割を、直に見せていただく体験をすることができました。

長年にわたる日本と IUFRO の関係から、IUFRO 会員機関や officeholder に、相互の利益や関係性のある問題を取り上げ、各研究部門の国際研究集会を編成・開催することをお奨めします (注 3)。

この状況下において、IUFRO ストラテジー 2015-2019 (<http://www.iufro.org/discover/strategy/>) に注目していただきたいと思います。IUFRO は、科学協力を促すための 5 領域の研究テーマを提示しています。

- 1 Forests for People (人々のための森林)
- 2 Forests and Climate Change (森林と気候変動)
- 3 Forests and Forest-based Products for a Greener Future (環境に優しい未来のための森林と林産物)
- 4 Biodiversity, Ecosystem Services and Biological Invasions (生物多様性、生態系サービスと生物侵略)
- 5 Forest, Soil and Water Interactions (森林、土壌、水との相互作用)

新しいタスクフォースは、これらの研究テーマに関連づけて設定されます。これらは、世界中の研究者が、森林研究に大きく貢献し、研究を大きく活性化させるための原動力となるでしょう。

ご存じの通り、2016 年 10 月 24 日から 27 日に、アジア

・オセアニア IUFRO 大会が、中華人民共和国、北京において開催されます。同大会は、アジア・オセアニア地域の森林研究者にとって、重要な成果公表の場になることでしょう。さらに IUFRO は、2017 年にドイツ連邦共和国 Freiburg で、IUFRO 125 周年

記念大会を執り行います。そして、2019 年には、ブラジル連邦共和国 Curitiba で第 25 回世界大会が予定されています。IUFRO の歴史の中で、世界大会がラテンアメリカで開催されるのは 2019 年が初めてです。

私は、日本の IUFRO 会員と officeholder とが国際評議員と連携し、上記 IUFRO 大会に参加するかどうかを議論し、また、これらの IUFRO 大会に是非活発に関わっていただくことを切に希望します。同時に、皆様に IUFRO 研究部門コーディネーターやタスクフォースコーディネータにコンタクトしていただき、IUFRO 研究部門の主要な国際研究集会を日本で新しく開催していただくことを推奨しています。

ご存じのとおり、IUFRO ネットワークは、会員の一人一人が積極的に関与することによって、真にグローバルな森林科学についての知識の共有と協力を促進します。皆様の積極的な IUFRO へのご協力を期待します。

2015 年 7 月

翻訳：川元スミレ (IUFRO-J 事務局)



注 1：IUFRO INFORMATION (p.10) 参照

注 2：林野庁ウェブサイト森林・林業分野の国際的取組参照、日本語 <http://www.rinya.maff.go.jp/j/kaigai/kyoryoku/h23seminar.html>、英語 <http://www.rinya.maff.go.jp/j/kaigai/natural-disasters.html>

注 3：国際研究集会事務局への助成金については、IUFRO 研究集会事務局・参加助成実施要領参照 (p.12)

IUFRO International Conference Reforestation Challenges (再造林の挑戦) に参加して

東京大学大学院 森林利用学研究室 吉田美佳

はじめに

2015年6月3日～6日、セルビア共和国首都のベオグラード大学林学科において、国際研究集会 IUFRO International Conference Reforestation Challenges (再造林の挑戦) (以下学会と略) が開催された。その概要について報告する。学会は、ユフロ研究部門 1.01.03 温帯林の更新 (Temperate Forest Regeneration), 2.00.00 生理学と遺伝学 (Physiology and Genetics), 及び, 3.02.00 森林の造成とその取り扱い (Stand Establishment and Treatment) 後援により開催され、ユフロメンバーであるベオグラード大学林学科 (写真-1) の95周年記念事業として執り行われた。

概要

学会は、基調講演及び6セッション(「再造林計画と管理 (Planning and management of reforestation programs)」, 「苗木の性質と品質 (Stocktypes and seedling quality)」, 「再造林の経過観察 (Monitoring reforestation successes)」, 「植林・苗木と造林地の相互作用 (Planting and seedling-site interaction)」, 「樹種、亜種、種の選択 (Species, intra-species and seed source selection)」, 「苗畑と植林地における植栽木の健康 (Plant health in nurseries and plantations)」) からなり、17カ国から68人が参加した。口頭発表とポスターあわせて94件の発表があった。

開会の辞 (Inaugural talk) として、主催者であるベオグラード大学林学科准教授 Vladan Ivetić 氏による講演「セルビアにおける再造林:成功か失敗か? (Reforestation in Serbia: Success or Failure?)」が行われ、セルビアにおける再造林の状況と気候変動の影響に対する将来の危惧と再造林の課題が提示され、学会内での活発な意見交換が促された。

基調講演, セッション内容

開会式においては、Steven C. Grossnickle 氏 (カナダ) による「再造林:40年の経験から得た生態生理学的知見 (Reforestation Silviculture: An ecophysiological perspective lessons learned across 40 years)」と題した基調講演が、インターネット通話 (インターネットビデオ通信により、プレゼンテーションを表示しながら相互に対話が可能) を通じて行われた。新たな国際会議のスタイルとして驚きを禁じ得なかった (写真-2)。さらに、セッションの冒頭で、以下の3件の基調講演があった。

- ・ Anders Mattsson 氏 (スウェーデン王国) 「スカンジナビア諸国における再造林の挑戦 (Reforestation challenges in Scandinavia)」,
- ・ Kasten R. Dumroese 氏・Jeremiah R. Pinto 氏 (アメリカ合衆国) 「アメリカにおける再造林の挑戦:目標とする苗木の育苗 (Meeting reforestation challenges in the



写真-1 ベオグラード大学林学科正面玄関

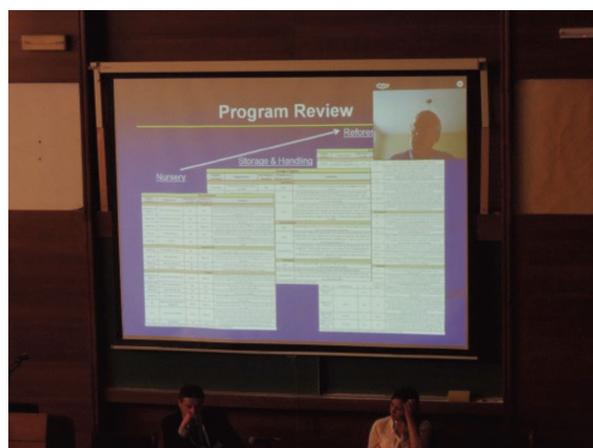


写真-2 インターネット通話による基調講演
左側が運営委員長の Vladan Ivetić 氏

US: Growing the target seedling)],

・Pedro Villar-Salvador 氏 (スペイン王国) 「スペインの地中海性気候における再造林：21 世紀の挑戦と苗木の品質と苗畑に関する教訓 (Reforestation of the Spanish Mediterranean forests: Challenges for the XXI century and lessons on plant quality and nursery cultivation)」

Kasten R. Dumroese 氏・Jeremiah R. Pinto 氏の講演では、アメリカ合衆国で生産される苗木が年間 11.8 億本であり、そのうち 2.74 億本がコンテナ苗とのことである。太平洋に面した北西部、北東部、南部の 3 カ所で年間生産量の 92% を生産している。伐採面積の減少から苗木生産が減少傾向にあるという背景を受け、必要とされている様々な樹種の高品質な苗木生産を目指した研究が行われているということであった。太平洋に面した北西部では、7,400 万本の苗木が生産され、42% が裸苗、92% が針葉樹である。コンテナのサイズはほとんどが 90 ~ 250 ml とのことである。北東部は針広混交林と針葉樹の造林が主体で、1 億 200 万本の苗木が生産され、72% が裸苗、73% が針葉樹、コンテナのサイズはほとんどが 60 ml である。南部は針葉樹の造林がさかんで、9 億 8,300 万本の苗木が生産され、82% が裸苗、96% が針葉樹 (主としてダイオウショウ (*Pinus palustris*)), コンテナのサイズは 90 ~ 125 ml とのことである。温暖化の影響で、マウンテンパインビートル (*Dendroctonus ponderosae*) の被害や、セイヨウカラマツ (*Larix occidentalis*) の将来の分布予測が紹介され、分布拡大を助ける戦略が述べられた。

Anders Mattsson 氏の講演では、アイスランド共和国、スウェーデン王国、デンマーク王国、ノルウェー王国、フィンランド共和国の 5 カ国における再造林の取り組みが紹介された。アイスランド共和国では土地が限られており、農耕牧畜に土地を利用することが優先され土地所有者は植林に積極的でないため、造林がなかなか進まないという話が印象的であった。スウェーデン王国では、年間 4 億本の苗木が生産され、苗の大量生産のための LED (Light Emitting Diode) を利用したコンテナ苗の育苗機が開発され、1 機で最大年間 1,400 万本のコンテナ苗を生産できる見込みであることが報告された。また、寒冷な外気温に対応した苗の出荷プログラムの説明があった。

Pedro Villar-Salvador 氏の講演では、雨季と乾季のある地中海性気候に適応した苗木を作るための育苗条件やコンテナサイズ、肥料などの具体的な提案に加え、限られた予算の中では、森林面積の拡大よりもまずは現存する森林の育成更新に力を入れるべきという提言があっ



写真-3 フェアウェルパーティでの記念写真

た。このような基調講演によってその他の報告についても広い視点からそれぞれの取り組みについて考えることができ、夕食会をはじめ (写真-3)、学会中は終始意見交換が活発になされた。

筆者の所属する森林工学分野からは造林方法に関して、イタリア共和国から Maria Raffaella Ortolani 氏らによる「空中からの種爆弾投下による造林 (Aerial reforestation by seed bombs)」があり、省力化の試みとしておもしろかったが、散布した種は表土に覆われないため、動物に食べられないかとの質問があった。筆者は、全木集材することにより地拵えを省力化しコスト低減を計るとともに、全木集材によって得られた低位利用材をエネルギー用チップとして収入化することによって再造林費用の捻出を図る試算結果を発表し、チップングと地拵えの統合システムに関する提案を行った。会場からは、苗木生産コストがヨーロッパ諸国やアメリカ合衆国と比べて高いことが指摘され、また、土壌からの養分収奪の懸念について質問を受けた。遺伝や造林、植物生理などに関する発表については、学会ホームページ (<http://www.reforestationchallenges.org/>) で各発表要旨と発表スライド、写真が閲覧可能であり、学会紀要が出版予定であるため、そちらを参照いただきたい。

ポジェガ国営シードセンター (Požega seed and nursery centre)

セルビア共和国は、森林が 225 万 ha あり、国土の 29% を占める。18 世紀以前にはその森林率は 80% であったという。第二次世界大戦後には森林率が 21.4% にまで減少し、毎年 3,500 ha の植林を行ってきた。そのようなセルビア共和国において苗木の生産は重要であり、ベオグラードから南下すること 1 時間半程度のところにセルビア共和国で 2 つ目の国立シードセンターであるポジェガ国営シードセンターがある。旧ユーゴスラビア時代に、政府の出資により 1971 年に育苗センターが設立された。現在の国家体制になって 2007 年に選種センターと植え付け機を導入し、現在は 70 万本から 80 万

本の苗木を、国内だけでなくヨーロッパ諸国（オーストリア共和国、ハンガリー、ポーランド共和国、オランダ王国など）にも販売するシードセンターとして機能している。250万本の苗木を生産できる能力があるが、貯蔵場所が限られており最大能力の発揮には至っていない。

1名の技術者を中心に10名の職員がおり、シーズンになると7名の作業員と、秋には5人の季節作業員が追加される。15年前は30名の雇用があったが、合理化が進んだ。主となる販売樹種として、ノルウェースプルース (*Picea abies*)、シッケモアメイプル (*Acer pseudoplatanus*)、セイヨウトネリコ (*Fraxinus excelsior*) をコンテナ苗で育てており、その他にもヨーロッパクロマツ (*Pinus nigra*)、セルビアスプルース (*Picea omorika*)、スコッチパイン (*Pinus sylvestris*)、園芸用樹種なども苗畑で育てている。

種は毎年森林から採取し、選種機によって取り出している (写真-4)。遺伝的な多様性を重視し、種の選抜は行っていない。選種機、植え付け機はスウェーデン王国のBCC社 (<http://www.bccab.com/index.html>) の製品であり、コンテナの規格サイズは1コンテナ28セル、1セルが5cm×5cm×15cm、容積278cm³のサイズである。一方、機械導入前のセルビア製コンテナは1コンテナ54セル、セルは六角形をしており、容積は110cm³である。以前のコンテナは既に生産をしていないが、1コンテナに育てられる本数が多いため再利用を行っている。コンテナのサイズについては今後検討が必要であるとのことである。

ベオグラード大学林学科 Goč 演習林

セルビア共和国の中央付近に位置する Goč 演習林は面積3,700haであり、1956年に設立された (写真-5)。学士から博士課程、また、林学を勉強する高校生に学習



写真-4 コンテナ苗と参加者

機会と研究環境を提供している。育苗設備から製材所までそろっているため、総合的な学習と実習が可能である。フィールドトリップ参加者は演習林内の宿泊施設に宿泊し (写真-6)、専用小屋で炭火で丸焼きにされた羊肉と豚肉のもてなしを受け、ラキア (プラムなどを原料とするホームメイドの蒸留酒) に舌鼓をうった。

おわりに

地域気候変動 (change of micro climate) という言葉で表現されていたが、セルビア共和国では大雨が多くなり、洪水などの被害が出ているとのことである。気候変動の影響を強く実感しており、環境面からも林業の重要性が増している。日本国でも近年、大雨などによる被害が頻発していることに鑑みると、人ごととは思えない。日本国における造林への取り組みも様々な観点からさらに加速させる必要がある。

旧ユーゴスラビアの首都でもあったベオグラードは、ドナウ川とサヴァ川の合流地点にあり、ヨーロッパ、トルコ共和国、ロシアの交通、文明の要衝にあり、それだけに戦火も絶えなかった。170万人の人口を抱えるベオ



写真-5 夕方、演習林のシンボルとなっている一本松の前にて演習林旧職員から概要説明を受ける



写真-6 新築の宿舎

グラード市内は急速な復興によって活気に満ち溢れていたが、コソヴォ紛争のときのNATO (North Atlantic Treaty Organization) による空爆撃跡が残っており、放射能汚染によってがれきの撤去ができないとうかがっ

た。FAO (Food and Agriculture Organization) などの援助も受けながら、多様な視点からも森林、林業に真剣に取り組まれている。セルビア共和国の国際社会でのこれからの活躍が期待される。

IUFRO-J 平成 27 年度機関代表会議

平成 27 年 3 月 26 日に北海道大学農学部において、標記会議が開催されました。A 会員 7 機関、B 会員 4 機関の代表と 3 名の IUFRO 役員の方に出席いただき、鈴木和夫議長の司会で議事が進められました。以下では、代表会議で審議、承認された議題の概要を報告いたします。なお、機関代表会議開催に際し、北海道大学の第 126 回日本森林学会大会運営委員会の皆様に大変お世話になりました。この場をかりてお礼申し上げます。

議長挨拶

議案の報告と審議に先立ち、鈴木議長より、昨年 10 月にアメリカ合衆国ソルトレイクシティで開催された第 24 回 IUFRO 世界大会のための情報提供を機に、IUFRO-J からの情報発信量が多くなっていること等が紹介されました。

議題 1. 平成 26 年度会務報告

1. 一般会計事業

1) IUFRO-J News 発行

No.112 (平成 26 年 6 月)

- ・第 24 回ユフロ世界大会、ソルトレイクシティで開催
—国際化からグローバル化へ—
- ・ベトナムにおける IUFRO Acacia 会議に参加して
- ・IUFRO-J 平成 26 年度機関代表会議
- ・第 24 回 IUFRO 世界大会に関するお知らせ
- ・事務局からのお知らせ

No.113 第 24 回世界大会特集 (平成 26 年 12 月)

- ・第 24 回ユフロ世界大会開催される
- ・第 53 回ユフロ拡大理事会に出席して
- ・第 24 回 IUFRO 世界大会の概要
- ・IUFRO 世界大会のテーマ“Forests for People”に参加して
- ・ユフロ第 5 部門「林産物」、大会テーマ“Forests and Forest Products for a Greener Future”から IUFRO-Japan の皆様へ

- ・IUFRO World Congress 2014 に参加して
— gender の視点から—
- ・IUFRO 本部紹介
- ・事務局からのお知らせ
- ・森林の維持、人々の維持：研究の役割「ソルトレイクシティ宣言」

No.114 (平成 27 年 3 月)

- ・IUFRO 世界大会テーマの変遷と日本からの貢献
- ・第 24 回 IUFRO 世界大会での技術セッションを開催して
- ・2014 IUFRO Tree Breeding Conference に参加して
- ・IUFRO 国際研究集会紹介
- ・IUFRO Board
- ・事務局からのお知らせ
- ・IUFRO ホームページ

会誌送付会員 (平成 27 年 3 月 19 日現在) の現状

- A 会員：24 機関 552 名 (会員数前年度比：1 機関増 24 人減)
- B 会員：12 機関 8 口 + 11 名 (会員数前年度比：機関数増減ゼロ、1 人減)
- C 会員：20 名 (会員数前年度比：1 人増)
- 賛助会員：0 機関

2) 理事会出席助成

東京大学 酒井秀夫

3) IUFRO 関連研究集会事務局・参加助成

申請 0

4) 第 24 回 IUFRO 世界大会対応

☆国際評議員会、拡大理事会への参加助成

東京大学酒井秀夫先生の拡大理事会と国際評議員会 (代理出席) 出席に対し、旅費助成を行った。

☆世界大会の情報共有

世界大会事務局関連情報を、IUFRO-J News No. 112, およびメーリングリスト（4件）で会員に周知した。

☆ IUFRO-J 会員がオーガナイズする Technical Session を IUFRO-J News No. 114 で周知した。

- The role of research towards evidence-based practice
香川隆英（森林総研）
- Innovative planning and managing approaches for sustainable tourism in forests and natural areas
田中伸彦（東海大学）
- Integrating landscape protection, nature-based recreation and tourism, and rural development 伊藤太一（筑波大学）
- Forest ecosystem services contributing to agriculture
岡部貴美子（森林総研）
- Ecology and dynamics of dead wood dependent species at multiple trophic levels – Promoting natural pest control in managed forests or increasing hazards?
岡部貴美子（森林総研）
- Radioactive contamination in forest ecosystems and safe uses of forest products 高橋正通（森林総研）
- Forest management for wildlife conservation
明石信廣（北海道立総合研究機構 林業試験場）
- Advances in forest carbon measurements and monitoring for building REDD+ MRV systems 平田泰雅（森林総研）
- Understanding the relationships among biodiversity, carbon, and people for REDD+ forests: The importance of environmental and social safeguards
岡部貴美子（森林総研）

5) IUFRO-J 活動の普及啓発

☆適宜 IUFRO 本部との連携を心がけ、IUFRO-J の活動と IUFRO-J News No. 113 と No. 114 が本部ウェブサイト Noticeboard に掲載された。

<http://www.iufro.org/discover/noticeboard/iufro-announcements/>

☆国際的な取り組みにより森林研究を推進しようとする IUFRO および IUFRO-J の活動を、国内外のより多くの人に紹介するため、森林総研図書館において IUFRO 書籍の保管と展示を開始した。

6) 情報伝達体制の整備

IUFRO-J 会員への情報提供を円滑にするために、各機関に所属する会員のメールアドレスを含む名簿を整備、

メーリングリストを構築し、8件のメールニュースを発信した。

- IUFRO 世界大会登録延長のお知らせと登録完了のお願い 5/1/2014
- IUFRO-J News112 号発行, IUFRO 国際研究集会のお知らせ 6/27/2014
- IUFRO Strategy 2015-2019 へのコメントをお送り下さい (メ切7月15日) 7/8/2014
- IUFRO 世界大会 (Salt Lake City, USA, 10月5-11日) 関連情報 9/29/2014
- IUFRO 世界大会関連ニュース, 報告および今後の国際研究集会情報 10/28/2014
 - ・ [iufro-j:1] IUFRO Task Forces: Open Call for Proposals, 11/21/2014
 - ・ [iufro-j:2] 森林総研 IUFRO-J メールニュース (12/26/2014) ☆ IUFRO-J News113 号配布お願い, 平成 27 年度機関代表会議お知らせ, IUFRO 国際研究集会カレンダー, 出版物案内等
 - ・ [iufro-j:3] 森林総研 IUFRO-J メールニュース (3/24/2015) ☆ IUFRO-J News No. 114 配布お願い, 平成 27 年度機関代表会議, IUFRO 国際研究集会カレンダー, IUFRO 本部情報等

2. 平成 26 年度役員

- 議長 鈴木 和夫（森林総研）
- 監事 阿部 恭久（日本大学）
藤田 和幸（元森林総研）
- 幹事 清野 嘉之（森林総研）
新山 馨（森林総研）
- 主事 川元 スミレ（森林総研）

議題 2. 平成 26 年度会計決算報告

一般会計

【収入】

科目	予算	決算	備考
前年度繰越金	1,197,503	1,197,503	
会費 A 会員	576,000	523,000	H25 年度までの会費を H26 年度に払った団体、個人 (前年度分を当年度に)
B 会員	56,000	28,000	
C 会員	19,000	14,000	
前年度未収分	109,000	88,000	
前納分	0	2,000	H27 年度以降の会費を H26 年度に払った団体、個人 (次年度分を当年度に)
雑収入	100	123	利息
単年度収入小計	760,100	655,123	
合計	1,957,603	1,852,626	

【支出】

科目	予算	決算	備考
情報活動費	427,000	404,460	IUFRO-J News (No.112, 113, 114) 送料・通信費
内訳			
IUFRO-J News No. 112印刷	130,000	88,830	送料 (4,988 円), 発送手数料 (3,240 円)
IUFRO-J News No. 113印刷	130,000	168,674	送料 (6,308 円), 発送手数料 (3,240 円)
IUFRO-J News No. 114印刷	130,000	120,582	送料 (5,358 円), 発送手数料 (3,240 円)
IUFRO-J News 送料	30,000	26,374	
通信費	7,000	0	封筒, 切手代
会議費	30,000	24,000	平成 26 年度機関代表会議 (大宮ソニックシティ)
旅費 役員会出席	450,000	112,300	理事会出席助成
雑費	10,000	6,274	(振込手数料) (会費受領時送金手数料)
予備費・助成	0	0	
単年度支出小計	917,000	547,034	
次年度繰越	1,040,603	1,305,592	3/13/2015
合計	1,957,603	1,852,626	

議題 3. 監査報告

平成 26 年度監査報告

平成 26 年度 IUFRO-J 事業会計について監査した結果、各種帳簿ならびに証拠書類はいずれも、正確に整理・記録されており、本件経理は適正であったことを認める。

平成 27 年 3 月 16 日

IUFRO-J 監事

日本大学 生物資源科学部

阿部 恭久 印

平成 26 年度監査報告

平成 26 年度 IUFRO-J 事業会計について監査した結果、各種帳簿ならびに証拠書類はいずれも、正確に整理・記録されており、本件経理は適正であったことを認める。

平成 27 年 3 月 17 日

IUFRO-J 監事

藤田 和幸 印

議題 4. 平成 26 年度会務報告、会計決算、監査報告の審議、承認

議題 5. 平成 27 年度事業計画案

1. 一般会計事業

1) IUFRO-J News 発行

No. (予定時期)：掲載記事に関する事務局案

No.115 (平成 27 年 7 月)：機関代表会議報告、集会報告、助成事業紹介

No.116 (平成 27 年 11 月)：集会報告、IUFRO 本部紹介

No.117 (平成 28 年 3 月)：集会報告、IUFRO 本部紹介

各 700 部印刷し、会員配布

IUFRO および IUFRO-J の目的に添った内容で、会員相互に広く共有すべき記事を掲載する。

PDF 版の提供：IUFRO-J News の PDF 版を希望する会員にはメールで配布する。

2) 役員会出席助成

IUFRO 役員の役員会出席に対し、単年度一名あたり 15 万円を上限とする。

3) IUFRO 研究集会事務局・参加助成

参加助成：若干名

事務局助成：1 件

助成事業の概要メモ

○助成申請は随時受け付けている。

○12 月末で集計し、選考委員会に諮り、助成対象を決定。

○応募の詳細は IUFRO 研究集会事務局・参加助成実施要領参照。

○具体的内容

「IUFRO 関連集会 事務局・参加」

年間総額 50 万円程度

事務局：20 万円/団体、

参加：10 万円/人 目途 (発表は海外に限る、ただし世界大会を含まない。)

選考委員会 (現在、5 名で構成) で決定。

応募資格：会費を納入している会員に限る。

助成を受けた者のオブリゲーション：IUFRO J-News での報告。

4) 研究集会の後援

○研究集会の目的が IUFRO-J の主旨に沿う研究集会について、広報の支援を行う。後援内容は経費の支出をとみなわないものとする。主催者からの申請にもとづき、事務局で後援を決定、実施し、機関代表会議に報告する。

5) IUFRO-J 活動の普及啓発

☆ IUFRO 本部との連携を進める。

☆ IUFRO および IUFRO-J の活動を、国内外のより多くの人に紹介する。

6) その他、承認事項

☆ 2015-2019 国際評議員日本代表は IUFRO-J 議長沢田治雄、代表代理は代表に一任。

☆ IUFRO-J News バックナンバーの公開について
会員および会員外への情報発信の一環として、発行後1年を過ぎた IUFRO-J News は、ウェブサイト上に PDF ファイルとして公開する。これにより多くの人に IUFRO の活動を知ってもらい、IUFRO-J 会員の増加にも貢献するよう努める。

☆ IUFRO-J News に ISSN (International Standard Serial Number: 国際標準逐次刊行物番号) を申請する。

☆ 冊子体を現行の B5 版から A4 版に変更する。

☆ 情報伝達体制の整備について

IUFRO-J 会員への情報提供を円滑にするため、各機関に所属する会員のメールアドレスを含む名簿整備を継続するため、会員のメールアドレス提出を引き続きお願いする。

☆ メールニュースの内容希望を適宜受ける。

議題 6. 平成 27 年度予算案

予算案立案の基本的な考え方
単年度収支に心がける。

議題 7. 平成 27 年度事業計画案、予算案の審議、承認

議題 8. 役員選出

平成 27 年度役員

役員	氏名	(所属)	区分	(任期)	[役職による指定]
議長	沢田 治雄	森林総研	新	(H27 年 4 月～)	[理事長]
監事	阿部 恭久	日本大学	現	(H21 年 4 月～)	
幹事	藤田 和幸	元森林総研	現	(H23 年 4 月～)	[国際研究兼温暖化影響研究担当研究コーディネータ] [国際連携推進拠点長]
	松本 光朗	森林総研	新	(H27 年 4 月～)	
主事	新山 馨	森林総研	現	(H25 年 4 月～)	[国際研究推進室長]
	川元スミレ	森林総研	現	(H26 年 4 月～)	

議長、幹事および監事は機関代表会議で選出、主事は議長が委嘱。(会則第 11 条)
任期は 2 年、再任は妨げない。(会則第 12 条)

IUFRO 国際評議員会日本代表 (2015 ~ 2019)

代 表 沢田 治雄 (森林総研)

代表代理 田中 浩 (森林総研)

一般会計予算

【収入】

科目	予算	備考
前年度繰越金	1,305,592	
会費 A 会員	552,000	24 機関 (552 名)
B 会員	56,000	12 機関 (8 口 + 11 名)
C 会員	20,000	20 名
26 年度未収分	88,000	3/13 現在
次年度前納	0	
雑収入	100	利息
単年度収入小計	716,100	
合計	2,021,692	

【支出】

科目	予算	備考
情報活動費	427,000	IUFRO J-News 印刷費 (No.115, 116, 117) ・ 送料・ 通信費
内訳 J-News 115 印刷	130,000	
発送	10,000	送料, 発送手数料
J-News 116 印刷	130,000	
発送	10,000	送料, 発送手数料
J-News 117 印刷	130,000	
発送	10,000	送料, 発送手数料
通信費	7,000	封筒, 切手代等
会議費	0	平成 27 年度機関代表会議 (北海道大学)
旅 費 役員会出席	150,000	国際評議員会, 拡大理事会出席助成
雑 費	10,000	振込手数料, 送金手数料
助成	0	
単年度支出小計	587,000	
予備費	1,434,692	
合計	2,021,692	

その他

退任する議長、国際評議員より、IIUFRO の中で日本のプレゼンスをあげるには、国際研究集会を開催して実

績を積み必要があることや、そのための予備費の活用の可能性など、今後の IUFRO-J 活動への期待と抱負が述

べられた。



★日本の IUFRO Officeholders *

1.01.07 Ecology and silviculture of beech

D Matsui Tetsuya, Japan

1.01.09 Ecology and silviculture of fir

D Toshiaki Owari, Japan

1.01.12 Silviculture and ungulates

D Nobuhiro Akashi, Japan

1.01.13 Long-term research on forest ecosystem management in Northeast Asia

D Takashi Masaki, Japan

1.05.00 Unevenaged silviculture

D Hiromi Mizunaga, Japan

2.02.07 Larch breeding and genetic resources

D Katsuhiko Takata, Japan

2.08.05 Genetics of Quercus and Nothofagus

D Saneyoshi Ueno, Japan

3.01.01 Road networks and transportation

C Kazuhiro Aruga, Japan

3.01.02 Road engineering and management

D Hideo Sakai, Japan

3.03.00 Forest ergonomics

C Yozo Yamada, Japan

3.04.01 Operations systems analysis and modelling

D Masashi Konoshima, Japan

3.06.00 Forest operations in mountainous conditions

D Yashushi Suzuki, Japan

4.02.02 Multipurpose inventories

D Satoshi Tatsuhara, Japan

4.04.00 Forest management planning

D Atsushi Yoshimoto, Japan

5.04.08 Sawing, milling and machining

D Takeshi Ohuchi, Japan

5.10.00 Forest products marketing and business management

D Toshiaki Owari, Japan

5.10.01 Wood culture

D Yang Ping, Japan

6.02.00 Landscape planning and management

C Taiichi Ito, Japan

6.03.00 Nature-based tourism

D Nobuhiko Tanaka, Japan

6.06.00 Forest, trees and human health and wellbeing

D Yuko Tsunetsugu, Japan

6.08.01 Gender research in forestry

D Noriko Sato, Japan

6.09.00 - Forest education

D Mariko Inoue, Japan

7.01.01 Impacts of air pollution and climate change on forest ecosystems – Detection, monitoring and evaluation

D Hiroyuki Sase, Japan

7.02.10 Pine wilt disease

C Katsunori Nakamura-Matori, Japan

7.03.08 Forest protection in Northeast Asia

D Naoto Kamata, Japan

7.03.12 Alien invasive species and international trade

D Kenji Fukuda, Japan

8.02.02 Forest biodiversity and resilience

C Kimiko Okabe, Japan

8.03.07 Radioactive contamination of forest ecosystems

C Shinji Kaneko, Japan

9.05.06 Community forestry

D Mahbul Alam, Japan

* Officeholders (p.2)

C: IUFRO 研究部門分科会コーディネータ

D: IUFRO 研究部門分科会副コーディネータ

参照: <http://www.iufro.org/science/divisions/>

国際評議員

- ・ Haruo Sawada – International Council Representative
Forestry and Forest Products Research Institute
- ・ Hiroshi Tanaka – Alternate Representative

Forestry and Forest Products Research Institute

情報：Ms. Sylvia Fiege, IUFRO 本部, 2015 年 7 月

事務局からのお知らせ

1. IUFRO-J 名称と目的

IUFRO-J は国際森林研究機関連合-日本委員会の略称です。IUFRO 本部の目的に沿って、その事業に協力するため、国内の森林・林産業に関連する研究機関の相互連携を図るとともに、IUFRO 本部に関連する諸活動に貢献することを目的としています。本会の趣旨に賛同する機関・団体または個人が IUFRO-J の会員になることができます。以下のリンクをご参照下さい。

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/kaisoku.htm>

2. IUFRO 研究集会事務局・参加助成の募集について

2017 年 3 月までに開催される IUFRO 関連研究集会に対して実施要領 (p.12) に従い IUFRO 研究集会事務局・参加助成を行います (参加の場合は海外での集会のみです)。希望者は 2015 年 12 月末までに、規定の書式に従い助成申請書を提出してください。申請書の様式は下記のウェブサイトからダウンロードできます。

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/jyosei.htm>

3. IUFRO 刊行物

IUFRO-J 事務局と森林総合研究所図書館は、IUFRO 関連書籍を整備中です。World Series は第 33 巻まで所蔵しております。IUFRO 国際研究集会などでは、講演要旨集はウェブサイトでの公開が主流となっており、冊子体ごく少数部しか発行されないため、集会事務局関係者の方々におかれましては、今後一部を森林総研図書館 (または IUFRO-J 事務局) にご寄贈いただければ幸いです。

4. IUFRO-J News に関するお知らせ

IUFRO-J NEWS は、平成 27 年度 IUFRO-J 機関代表会議決定に従い、今年度より ISSN 2189-5503 を取得、A4 冊子体で発行されます。IUFRO-J News バックナンバー

は、1 年前のものまで全文をウェブサイトに公開いたします。

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/contents.htm>

5. お願い

メールニュースにつきましては、平成 26 年度 IUFRO-J 機関代表会議の決定により、IUFRO-J 会員相互の情報共有を促進するため、メールアドレスを事務局にご登録いただきましたすべての IUFRO-J 会員の方々に配信しております。メールニュースの配信を希望される方は事務局までご連絡ください。

会費納入・研究者登録のお願い

IUFRO-J の活動は会費収入で運営されております。健全な会の運営のために会費納入をお願いいたします。

A, B 会員におかれましては、会費納入と併せて研究者 (会則第 5 条)、連絡員 (付則 1) の登録 (事務局への連絡) をいただいております。また、転勤・退職等で機関を離れた皆様には、あらためて C 会員としてご登録いただきますようよろしくお願いいたします。

納入方法

郵便振替の場合

郵便振替口座：00190-3-159224

名義：IUFRO-J 事務局

*事務局といたしましては、できる限り郵便振替をご利用いただきますようお願い申し上げます。

銀行振込の場合

筑波銀行 牛久支店 普通預金口座 697583

ユフロ-ジエイ ジムキョク サワダハルオ
名義：IUFRO-J 事務局 沢田治雄

注意：- (ハイフン) をお忘れなく。

◆ IUFRO 研究集会事務局・参加助成募集 ◆

下記実施要領に従い、2017年3月までに開催されるIUFRO関連研究集会に対して、2015年度の助成希望者を募集します。2015年12月末までにご応募ください。助成者の決定は書類審査により選考し、申請者にお知らせします。

IUFRO 研究集会事務局・参加助成実施要領

対象集会：IUFRO 関連研究集会（参加費助成は、海外での研究集会に限ります。ただし、世界大会への参加助成はいたしません。事務局費助成は、事務局が日本にある場合に限ります。）

助成金額：事務局：20万円/団体、
集会参加：10万円/人 を目途とします。

応募資格：会費を納入している機関、会員

- 会則第5条に則り、研究者登録をお忘れなくお願いします。
事務局で会費納入を確認できない方は助成の対象にできません。
- 研究集会参加は筆頭発表者に限ります。

募 集：随時受付、規定の申請書に必要事項を記入し、必要資料を添付して、下記まで送付。

〒305-8687 茨城県つくば市松の里1番地
森林総合研究所内 IUFRO-J事務局 宛

選 考：12月末現在で集計し、集計時から1年3カ月後までに開催される研究集会を選考対象として選考委員会に諮ります。

選考結果：IUFRO-J News で発表。

助成時期：原則として集会開催1カ月前。

（国際集会の場合、キャンセルになる場合もありますので、できるだけ直前とします。）

備 考：助成を受けた機関・会員にはIUFRO-J News への投稿を求めます。

注 意：助成金額はあくまで目途です。IUFRO-J 一般会計の収支状態によって、事務局で勘案いたします。

附 則：（平成9年4月施行通知、初出IUFRO-J News No.61）

（平成9年7月10日 IUFRO-J News No.61 掲載一部改定）

（平成13年8月 IUFRO-J News No.73 掲載一部改定）

IUFRO-J News No. 115

平成27年8月24日

国際森林研究機関連合-日本委員会事務局

〒305-8687 茨城県つくば市松の里1

森林総合研究所 国際連携推進拠点

TEL 029-829-8327

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/>

iufro-j@ffpri.affrc.go.jp

〔編集・発行〕